

令和 6 年度学校評価のための具体的達成目標と評価指標

[1] 今年度の重点課題

多様性への理解と規範意識の向上	主体的・対話的で深い学びの推進
① 決まりを守り、優しい気持ちの醸成と自己有用感を高める取組の推進 ●善悪の判断を育てる 道徳教育 ●自分らしさへの気づきと自己有用感を育てる取組 ●家庭と連携した ICT モラル教育 ② 多様性への理解や自分らしさを発見し互いに尊重しあう態度の育成 ●障害や不登校、外国籍、LGBTQ 等の多様性の正しい理解と支援 ●不登校児童等の居場所づくり	③ 児童が主体的に協働して学び、考えを広げ深める学習の推進 ●児童同士の意見交流と考えを深める授業づくり ●書いて表現する意欲を高め、表現力を育成する取組、発信する場の充実 ④ 地域と連携した郷土学習やキャリア教育の推進 ●地域学校協働本部や市教委等と連携した特色ある取組
保護者、地域から信頼される学校づくり	
⑤ 問題行動への組織的な対応	●外部専門機関や学校運営協議会、地域、保護者との連携
⑥ 「鹿小らしさ」についての共有と取組の推進	●分かりやすい情報の発信

[2] 具体的達成目標と評価指標

課題番号	具体的達成目標と評価指標
①	●「チャイムや時間を意識して行動した」「教室移動の時は並び、廊下の右側を歩くように心がけた」について、「できた」「概ねできた」と回答する児童を 80%以上にする。 ●「善悪の判断」「正直・誠実」「規則の尊重」についての道徳科の授業で、考えることができた児童を 6 割以上にする。
①	●児童の自己肯定感・自己有用感を高め、よりよい人間関係を築こうとする児童を育成する。 ●「おはよう」「ありがとう」などの挨拶が適切な場面でできるように指導し、「できた」「概ねできた」と回答する児童が 70%以上にする。 ●「人をいたわる言動ができて」「みんなと協力してよりよい学級や学校を作ろうと思っている」と回答する児童を80%以上にする。
②	●障害や外国籍、LGBTQ 等の多様性の正しい理解のための授業や取組、職員研修を年間3回以上行う。
③	●児童同士の意見交流を取り入れた授業を 6 割以上の時間において設定するよう心掛ける。 ●タブレット端末を使って、課題解決のために自分で調べたり人と意見交流をしたりして学びが深まったと感じる児童を増やす。
③	●児童が自分の考えを書いて表現したり説明したりする機会をつくり、自分の考えを人に伝えることがうまくできた方だと感じる児童を5割にする。 ●自分の考えや思いを書いて表現したり説明したりすることが好きだと答える児童を 6 割以上にする。
① ④ ⑥	●学校運営協議会や地域学校協働本部の意見を取り入れながら、地域と学校が相互に連携し、協働して行う様々な活動を実施する。 ●育友会と連携し、保護者を巻き込んだデジタルリテラシーや ICT モラルについての学習の機会を設ける。
⑤	●児童の問題行動への対応を SC や SSW、サポートセンター職員とともに、学校や学年全体で話し合う機会(教育相談部会や児童連絡会)を持ち、互いに支え合って課題に対応することで、教職員が安心して対応できたと回答する割合を 80%以上にする。
⑥	●学校の方針や授業、学校生活の様子などを学校だよりや X その他の方法で、分かりやすく発信する。